

I 事業期間

令和5(2023)年 4月 1日～令和6(2024)年 3月 31日【第22期】



II 事業の実施状況

① 特定非営利活動に係る事業

(1) 事業名 ～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ

【概要】会員制・予約制の子どものための子どもの家(認可外保育施設)の運営
食事提供・送迎サービス、種々の体験活動・交流機会の提供

【実施場所】大阪狭山市大野台7丁目18番3号

【開設日時】火～金 10時～13時

依頼に応じて時間外対応

【対象者】生後4か月以上の利用会員
家庭の児童、1日利用定員
5名(小学生以上可)

【方針】

- 年齢・校区を問わない夜間までの地域の子どもの居場所づくり
- 公的資金を伴わない、行政サービスの行き届かない領域の子ども・子育て支援と、コミュニティの関係づくり

日中から夜間までの間や学校の長期休業日に、保護者が就労、育児・介護、疾病等により、子どもを保育することが出来ない場合などに、遊びと学習環境、安全で自立的な暮らしの場を子どもたちに提供する。

子どものためのコミュニティ・スペースとして、レクリエーションや学習、生活全般を通して、子ども同士、関わる人たちとのコミュニケーションの機会を提供する。

子ども・保護者からの種々の相談に応じる。さらに、地域活動に積極的に参加し、会員相互のみならず地域との交流を促し、地域福祉力の増進に寄与する。

「しんどいときは、SOS! 助け合うのが当たり前」(定款第3条【目的】意識抜



料)の精神で、地域社会で自分たちが担うべき役割や力を自覚し、住民経営によるコミュニティ・スペースづくりを堅持しながら、独自性と普遍性を表現していく。保護者の都合や希望を受け止めるだけでなく、子ども自身の主体的な意思やニーズをとらえ、育児や地域生活、各自の仕事を応援するため、自らの五感を軸に「プラスワンの親切」を実行する。出席児童の諸状況を充分考慮の上、保育を提供する。

- ① 風土や草木にふれて、心や感性を育み合う
- ② 商業主義にのらない文化や暮らしを体感する
- ③ 多様な人々や動植物が直にふれあう場をつくる
- ④ 社会に目を向け、地域に出掛け、出会い、知る



【事業の実施状況と今後について】

2023年3月31日の出席を最後に、当年度の保育利用は無かった。年明けから利用者層には閉業の旨を伝えており、前年度後半からは積極的な新規利用会員の募集を行わなかった。4月から5月にかけて、会員向け交流会(夕食会)や、懇談(電話・訪問・メールのやりとり)を実施。秋以降のイベント企画や将来的な活動・交流機会への参画も依頼しながら、保育利用がなくなってもつながりを継続していきたい。



創業時から自主事業として続けてきた～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュは、一旦その役割を終える。保育施設の増加や子育て支援の気運の高まり、働き方改革、家事・育児のシェアの考え方や生活スタイルの拡がりなどによって、人が生きやすくなっていったかどうかは疑念があり、いかなる枠をも超えようとオンデマンドでお受けしてきた我々の仕事も、地域社会のムーブメントやダイナミックな社会変革には寄与できたかどうかについては特に近年、自問し反省もするところ。「制度・改革」が進もうとも、少人数の家族内や親子間、同質性の高いコミュニティ内に落ち着いたヒトの育ちと関係が、かえって閉塞感や生きづらさ、格差の増長などに滑り落ちていくような焦燥感もある。

法人の理念や事業コンセプト*は、業や地域が変わっても今後も変わらない。常に此処に立ち返りながら、保育業以外で契機をとらえて、細く鋭く自由に活動していきたい。

法人の理念 自主・自立、多様性と人権の尊重、非暴力
interdependence diversity equity nonviolence

事業コンセプト
ほんまのトコロ、まんまのココロ
遊びが学び、暮らしが仕事
日月火水木金土に触れる毎日を



2002年の冬の居間
当期、この頃の子どもたちとの再会も



(2) 事業名 講師派遣事業 <講座やイベントの企画運営・講師派遣>

【事業の実施状況と今後について】

保育事業を終えて後も、月1~2回の体験活動イベントや小規模な講座を実施していく計画だったが、実行は殆ど出来なかった。思いのほか事業所の撤収に時間を要したことが大きな理由のひとつ。また、事業活動とは言え得ないが、個別にお問合せや事務所を訪問いただくことが年明け辺りまで続いた。この機をとらえて研修や視察・見学、事務面の再整備に注力したかったことに加え、当然、次事業の下調べや準備にと所用も重なり、積極的な事業活動は叶わなかった。継続したい「食の部活動」は1回のみ実施。企画中だった「筆刀針ワークショップ」やデイキャンプは、次期以降に持ち越す。講師派遣も、ご依頼いただいた件に尽力するまで。

いずれも、この期間に様々な方にお声かけ・お訪ねいただいたことは、出会いと再会、次なる仕事への導きであり、法人にとって珠玉の治癒と学びの時間となった。回復を経て、これまで職員が主対象だった研修や見学・体験企画についても、内外に案内していきたい。



23年10月下旬 倉庫からの撤出・書類整理

以下は、主要な取組の概要。

◆講師派遣◆

2023年7月8日(土)・22日(土)

団体立ち上げ

スタートダッシュ! 応援セミナー

(大阪狭山市市民公益活動団体立ち上げ支援補助金 於) 大阪狭山市役所南館 2階講堂
主催) 大阪狭山市市民活動支援センター



▲チラシも作ります▲

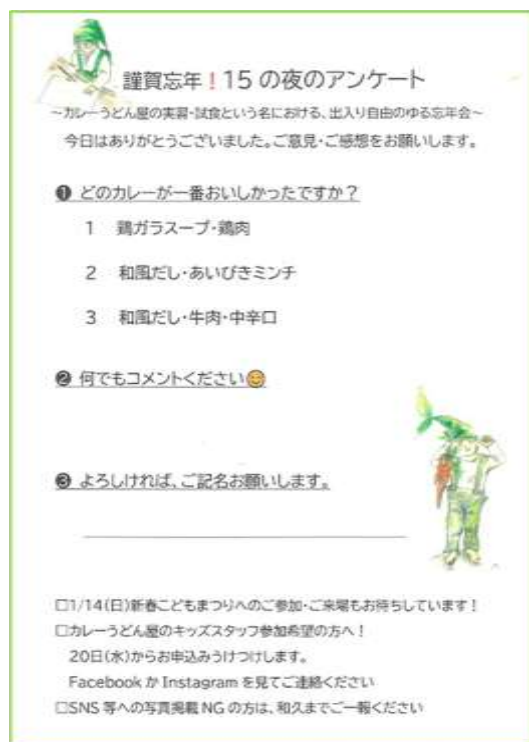
←2023年10月下旬 講座終了後、同窓会
進捗状況の報告と交流、市内ならではの関わり

◆自主企画・地域行事への参加◆

11月26日(土)
 食の部活動「魚をサバいて和定食」
 於) 大阪狭山市立公民館 調理室
 参加費ひとり 1,500円
 17名参加 スタッフ9名



2023年12月15日(土)
 15の夜~新春こまつり試食会~
 於) 大阪狭山市立公民館
 参加費無料 (カンパ歓迎)
 31名参加



2024年1月14日(日) 新春こどもまつり
「ワークレッシュのカレーうどん屋」
 於) 大阪狭山市立公民館
 新旧内外の「スタッフ」40名以上が集結!



(1)(2)
 【収入】 383,690円
 【支出】 660,245円
 -276,555円

(3) 事業名 児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス



【実施場所】大阪狭山市大野台7丁目18番3号

【実施日数】2023年5月31日までの48日間（休日：日曜、
国民の祝日に関する法律に規定する休日）

6月1日付で、合同会社トゥルーポイントに事業譲渡

【開設時間】平日：12時30分から18時30分

土曜・長期休暇中：10時から18時

[保育所等訪問支援：火～金10時から12時]

【対象】2歳～18歳の児童18名（2023年5月末現在）



【利用人数】放課後等デイサービス・児童発達支援：延べ383名
（契約18名うち未就学児4名/15家庭）

1日平均8.0名（定員10名・欠席加算含まず）

保育所等訪問支援：15件（契約6名うち小学生3名、未就学児3名）

【目的】利用する児童の健全な育成を支えるため、身体及び精神・環境に応じて、日常生活における基本的動作や知識技能の習得、並びに集団生活に適應するための指導訓練等を提供し、生活能力の向上と地域社会との交流を図る。

- 他者との信頼関係の形成
- 友達と過ごす心地よさや楽しさを味わう
- 葛藤を調整し、主張し、折り合いをつける
- 自己選択/自己決定

保育所等訪問支援においては、児童本人に対する間接支援、集団生活への適應や、存在・表現理解のための相互支援を促す。また、訪問先施設の保育士等との支援方法の共有、保護者との情報共有・連携を率先して担う。

【内容】

<児童福祉法に基づく指定障害児通所支援事業>

■ 児童発達支援・放課後等デイサービス

子どもの発達過程や特性、適應行動の状況を了解した上で、一人ひとりの置かれている状況や願いに即した個別支援計画を作成し、発達支援等を行った。下記の2)基本活動以下の活動を複数組み合わせることで日常のスケジュールを構成し、1日30分の集団療育プログラム（通称PA、パーソナル・アクティビティ）を毎日実施した。

1) 個別支援計画の作成

全児童について更新し、下記の具体的支援を進めた。

2) 基本活動

ア 自立支援と日常生活の充実のための活動

身支度（季節に合った服装・雨の日の準備）・クッキング・予定の確認・持ち物管理・手洗いうがい・身だしなみ・身体の清潔・外食・食事マナー・買物・掃除・健康管理（柔軟体操・ストレッチ・筋トレ・ウォーキング）・身体/体力測定・学習・あいさつ・言葉遣い・送迎ルール・交通マナー・作物と生物の世話



イ 集団生活の中で成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む活動

仲間を意識したルールのある遊び・チャレンジ宣言及びチャレンジカードによる目標管理と自己評価・目標やコメントの発表・イベントの企画・日/週/月や時節毎のふりかえり・子ども会議



ウ 創作活動

季節行事（花見/等）・工作・絵画・壁面装飾・自分たちの居場所作り・献立調理（買い物/おやつ・食事作り）



エ 余暇の提供

自由時間の室内遊び（アナログゲーム・コミュニケーションゲーム・PC・タブレット）、近所の公園での屋外遊び（おにごっこ・サッカー・体操）、遠足・外出（東大池公園・トキヲコエテ・こいのぼり@石川河川敷・風のこもんず・結の里・副池）、個別の休憩時間と場所の確保



3) 学校・保護者・地域との連携

ア 将来の自立や地域生活を見据えた活動

障害児通所部会（通称こどもむすぶ会）会合と研修の参加・他事業所訪問・保育所等訪問支援の活用・避難/防災訓練・保護者交流会

イ 地域交流の機会の提供

初詣・地域探検・ボランティアの受入れ・
近隣の就労継続支援事業所の運営する店舗を
訪問・食の部活動



4) 介護サービス

更衣、排泄等の身体介助
年齢に関わらず、可能な限り同性介助を行った。

5) 送迎サービス 722件(1日平均15.0件)

法人が所有または借用する車両により、利用者の自宅又は学校と事業所
の間の送迎を行った。専属ドライバーは登用せず、児童の直接支援に携わ
る指導員が運転手を兼任した。

6) 給食サービス

身体の発達状況や嗜好に配慮した献立を提供し、必
要に応じて介助した。子どもたちだけでなく職員や
ボランティアスタッフも出来るだけ一緒に食事を楽し
むようにしている。適時、児童が調理や配膳等の
役割を担った。



■ 保育所等訪問支援

1) 児童本人に対する支援

月1、2回の授業・生活の観察

2) 訪問先施設の保育士等に対する支援

報告書の提出、支援方法の共有

3) 関係者との相互の協力体制や信頼関係を構築

相談支援機関や園・学校、近隣事業所との関わりを重視

4) 担い手の養成・ノウハウ伝授

受け入れ側の許可を得て、一部2人体制を再開した



【収入】5,036,041円

(ボランティア受入評価益68,096円含む・
事業譲渡による雑収益含まず)

【支出】6,466,438円

(施設等評価費用・V評価費用含む)

▲1,430,397円

(3) 児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス (続き)



【事業承継の状況と今後について】

事業譲渡に至る経緯や総括、課題感に関しては、2022年度の報告書に、すでに多くを記載したため割愛する。経緯の説明等についても、ホームページのブログに概要を掲載しているのでこちらに再掲する。

<大切なお知らせ> 主要事業の譲渡及び閉業につきまして <https://x.gd/LvC4d>

2023年度初め、譲渡の可能性について、保護者や関係各所に伝え、お手紙を書き、話し、現場からは楽しみと期待を込めて子どもたちに伝え（事前の個別対応や家の相談を経て）、職員は転籍の面談や会議を持った。契約家庭との懇談や再契約・引継ぎ等の任務も加わり、多忙を極めた。書類やファイルを整理・共有したり、連絡・確認・調整することに、平常時より時間とエネルギーの要った新年度スタートだった。また、譲渡先の代表や新入職員も同席いただいたの保護者交流会（昼夜2回）や、職員歓迎交流会も実施した。もちろん従業者間の引継ぎ会議や面談も頻回であった。かように各所各人に対し多様な働きかけと交流をしながら、子どもたちの現場では、従業者皆それぞれの覚悟や思いも抱きつつ、彼たちの育つこの場を守っていきこうと懸命につとめ、初夏を迎えて一層、各持ち場では濃密な仕事ぶりや活発な議論の場が持たれた。



職員は、5名が合同会社トゥルーポイントに転籍（フェイスに残って職務を継続）し、ボランティアスタッフ3名も変わらず、フェイスの従業者として職務を継続している。5月末、以前からの予定通り2名が職務を全うして退職。法人代表である和久も管理者を退任。6月からは、児童発達支援管理責任者が管理者を兼務することとなった。事務職員は7月まで在籍し、残る業務に従事した。日本財団の助成を得て購入した車両2台は、同事業など

児童福祉・障害福祉・地域福祉を担う府下の2NPO法人に、それぞれ譲渡した。

譲渡の実行は6月1日であったが、以降も事務所等の荷物を引き払う手筈が遅れ、7月下旬までかかってしまった。ラストは、金魚。うさぎのチップも「譲渡」したかたちとなった。



その後も、業務全般や物品等々の引継ぎや移譲について問題や疑義があれば対応する構えであったが、当方が引き受けるべき事故やトラブルはなかった。通信物の授受や状況伺いの確認・連絡は継続した。2023年10月には、外部に借りていた倉庫の荷物撤収し、一部は現フェイスへ、そして一部は予定の新天地へ早々にうつした。書類や教材、処分品まで事務所に搬入し、室内や倉庫の空前の混沌状態が秋口まで続いた。事務所にフェイス宛の問合せ電話が入ることは年間を通してあった。1年間ネット上に補完情報として置くことにしていたが、情報の更改や整理が急務となっている。

事業・活動としては、ワークレッシュの企画や地域のイベントにフェイスのご家庭にも案内し、交流の機会を得ている。子どもたちやご家族にも事務所をお訪ねいただくこともあり、現フェイスとは同じ地区内でもあるので、今後も事業や契約の枠を超えた交流や学び（遊び）の機会を保っていききたいと思う。

2024年6月現在、経営主体が変わって1年が経ったところであるが、子どもたちは変化に柔軟に順応できていると聞く。その分、職員の大人たちは、非常に頑張ったし、変化したこと・変わらないこと、改善のための折り合いをつけられるよう大いに努めているとのこと。その成果のひとつとして、公表された保護者アンケートにも、保護者からの温かい声が届いていた。それぞれの言葉や事柄についてどんな意味や真意があるのか、そして、自分は親なのか「支援者」なのか「当事者」なのか「何」なのか、という枠組みや概念・観念を踏まえつつも超えて、考証し意見交換できる機会をこれからも持てたら良いと思う。子どもたちやはたらき集う人々が、のびのびと自分を活かし、元気や勇気や安らぎも得られる場・人であるためには・・・と、悩みながら、技能を磨き仕組みを整える、不断の努力を続けていこうというのは、常なること。気合や個性の力に頼ってはい持続しない。どの人も、人と信頼し合って生きること・頑張れることに勇気と楽しみの持てる場や関係性を築いていくために、これからも色々な人同士がお互いに学ぶ機会や、学びや事案を記録・記憶して引き継ぎ、受け継いでいく作業や時間を大切にしていきたい。

上段と同じ主旨だが、制約のない場と間を設けていければと考えている。

いずれにしても、現在につながる関係性を宝として深く感謝し、次の役割に向かって努力して進んでいかねばと心している。フェイスの従業者や利用家庭には、継続してワークレッシュの各種会員・理解者・協力者が多く居てくださる。譲渡先の法人にも、ワークレッシュの次の役割と展開へのステップを応援も理解もしていただいた上での承継である。当方は次の展開までに時間がかかっているものの、お互いの理念や領分を尊重しながら切磋琢磨して研鑽を積み、歩みを進め、成長していくことをお約束したい。



IV 理事会その他会議の開催状況等

● 理事会

全員そろっての理事会は開催せず

適時、ChatWork「理事会」グループ等にて、進捗状況の連絡や相談を交わした。

● 第21回 定期総会

2023年6月23日（金）11:15～13:00

於）富田林市錦織中2 割烹高野

正会員総数 10名

出席 10名（本人出席9名・委任状出席1名）



<議事>

- 1) 第1号議案：第21期事業報告（2022年度）
- 2) 第2号議案：第21期収支決算報告（2022年度）
- 3) 第3号議案：第22期事業計画（2023年度）
- 4) 第4号議案：長期借入金の算入
- 5) 第5号議案：第22期収支予算（2023年度）
- 6) 第6号議案：役員の選任
- 7) 議事録署名人の選任に関する事項



● 全体会議、職員研修等

<全体会議> 実施せず



<職員研修> 移転先方面視察・周遊

2023年9月2日（土） 10名参加

他、大阪府内外に多くの研修受講や視察の機会を得た。

下半期から重点研修として、代表の和久が次の講座を受講した。



■ NPO エンパワメント会議／ともしび・ひみつゼミ／スプリングボードキャンプ（成果報告） 主催：認定特定非営利活動法人日本 NPO センター

■ ファシリテーター養成研修（オンライン・全6日間）
 主催：NPO法人レジリエンス

【2023年度 会員数】

正会員 10名

賛助会員 31名

寄付者 17名

当年度中に事業展開の予定を明確にできなかったため、積極的な応援依頼は行わなかった。

